

湿地のグリーンウェイブ 2020 オンライン・ミーティング ～新型コロナ禍時代の湿地保全・賢明な利用についてみんなで語ろう～



出演者 プロフィール

【第1部】

■ 高橋 久さん (NPO 法人河北潟湖沼研究所)

金沢大学大学院自然研究科生命科学専攻（博士課程）修了。特定非営利法人河北潟湖沼研究所理事長の他、河北潟自然再生協議会事務局長、日本両生類研究会会長。

河北潟湖沼研究所

石川県河北潟と周辺地域をフィールドとして、1994年から活動開始、1999年にNPO法人となる。

ビジョン「流域の森や農地に支えられた汽水生態系の復活により、河北潟から豊かさを持続的に享受できる地域を目指します」

ミッション1 「潟の再汽水化と自然流下の復元」

ミッション2 「かつての潟の水質と生物多様性に近づけるための流域管理の視点からの農薬を使わない新しい農業の確立」

ミッション3 「泳げる河北潟・食べられる河北潟のために内水面漁業の復活」

ミッション4 「地域産業において潟の自然環境が活かされるための河北潟ブランドの確立とエコツーリズムの展開」

ミッション5 「林業の活性化による流域全体の健全化」

ミッション6 「コミュニティによる流域管理の手法の確立」

■ 井口 利枝子さん (とくしま自然観察の会)

“とくしま自然観察の会”は、誰でも気軽に参加してもらえる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら、自然について考えるためのネットワークづくりをしようと1994年4月に設立。“吉野川下流域の恵みをめぐると自然とのふれあいエコツアー”、小学校やこどもえんなどの観察会や干潟のムービー上映、お話会の出前、シオマネキの生息地を守るための清掃活動等をとおして「吉野川ひがたファンクラブ」を呼びかけています。吉野川の魅力を伝え、子どもたちに豊かな自然や恵みをのこすために、四国初のラムサール条約登録をめざしています。井口利枝子は設立時から世話人代表。生まれてからずっと吉野川にお世話になっています。好物はあんこ。 <https://shiomaneeki.net/>

■ 高野 茂樹さん (八代野鳥愛好会)

八代野鳥愛好会会長。本会は、1987年4月に創立されました。月1回の野鳥観察会(例会)を行い、例会の回数は300回を超し、毎年活動をまとめた会誌「カワセミ」を31号まで発行しています。1990年には、八代市に「市の鳥(カワセミ)」制定を請願、2004年には球磨川河口の東アジア・オーストラリア地域フライウエイ水鳥(シギ・チドリ類)パートナーシップ(EAAFP)参加の請願を行いました。「ラムサールネットワーク日本」の発足頭初からの会員として、鳥と人の共生の啓発に努め、球磨川河口干潟のラムサール条約湿地登録に努力しています。2017年にくまもと環境賞、2018年に地域環境保全功労者環境大臣表彰を受けました。

■ 屋良 朝敏さん (泡瀬干潟を守る連絡会)

2001年から泡瀬干潟を守る連絡会の一員として活動を開始し現在泡瀬干潟を守る連絡会事務局次長。2010年、那覇市役所退職を期に泡瀬干潟博物館カフェ ウミエラ館を開館する。

2020年4月閉館まで9年間泡瀬干潟を見守り続ける。

個人でのウミエラ館経営は大きなリスク、ハンディーを伴うが元環境省自然保護官、水野隆夫さんの副館長としての応援、泡瀬干潟を守る連絡会、砂川かおり沖国大講師ゼミ、知人友人やお客そして家族の協力、参加のもと泡瀬干潟の自然観察会を基本に様々な環境、社会問題の講演イベントの活動を企画実行してきました。閉館後も当初からの目標、南西諸島を代表する泡瀬干潟のラムサール登録を目指していきます。

■ 砂川 かおりさん (沖縄国際大学講師)

沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科講師。2000年より「泡瀬の干潟で遊ぶ会」事務局。2000年に同会は、オーストラリア連邦環境・遺産省大臣ロバート・ヒル氏より、泡瀬干潟を「東アジア・オーストララシア、シギ・チドリ類渡来地ネットワーク」の渡来地に指定するために日本政府に提案することを考慮して頂きたい旨の書簡を受け取る。沖縄市の泡瀬干潟は、2010年にはラムサール条約湿地潜在候補地にも選定された。

2001年には、米国カリフォルニア州のゴールデンゲート・オーデュボン協会のプロジェクトで、アラメダ市全体に展開されていたアメリカコアシサシの環境教育のボランティア講師養成プログラムに参加し、感銘を受ける。

2020年4月のウミエラ館閉館に伴い、泡瀬干潟の膨大な貝の標本を沖縄国際大学に譲り受け、学生たちの干潟の学びに活かしたり、コアシサシの繁殖地の保護活動にも大学生や地元の小学生と一緒に取り組んでいる。

■ 上野山 雅子 (ラムサール・ネットワーク日本)

NPO法人中池見ねっと事務局長。福井県敦賀市にある中池見湿地の保全活動に携わる中で、ラムネットワークJの活動にも参加。2015年より理事となり湿地のグリーンウェイブチームに所属。2019年より共同代表。

【第2部】

■ 草刈 秀紀さん (WWF ジャパン)

一般社団法人 リアル・コンサベーション代表理事、市民がつくる政策調査会前理事、WWF ジャパン森林・野生生物室 (野生生物グループ・政策担当)

1981年、日本大学農獣医学部拓殖学科卒。(財)日本自然保護協会の嘱託職員等を経て、1986年、WWF ジャパン入局。現在、一般社団法人 リアル・コンサベーション代表理事、WWF ジャパン国内グループ政策担当、市民がつくる政策調査会前理事。(公財)世界自然保護基金ジャパン事務局長付を務め、WWF ジャパン自然保護室次長、助成事業や生物多様性国家戦略、鳥獣保護法問題、種の保存法問題、外来生物法制度問題、野生生物保護法制定をめざす全国ネットワーク世話人、G8サミット NGO フォーラム環境ユニット生物多様性イシューリーダー、生物多様性条約市民 ネットワーク(CBD 市民ネット)の運営委員、「生物多様性保全関連法」作業部会長などを担当した。自然保護を巡る論考等多数。

■ 河村 玲央さん (環境省自然環境局生物多様性主流化室長)

生物多様性の保全を事業者や国民の行動に組み込む「生物多様性の主流化」に向け、事業活動における生物多様性保全の取組の普及、国民・消費者への「森里川海」の恵みを意識したライフスタイルの提案、地域の生物多様性保全のための事業の支援を担当。

これまで、環境省において、公健法の延長改正、京都メカニズムの運用、排出量取引制度の検討、税制のグリーン化・ESG 投資・グリーン購入の推進等の政策立案・実施に携わる。厚生労働省医薬食品局、経済開発協力機構(OECD)環境局、財務省主計局、原子力規制庁に出向。環境大臣秘書官(2019年9月～2020年9月)を経て現職。